

福井県医師会

だより

第608号 平成24年(2012)2月



蠟梅の里 坂井地区 西野 慎吾

表紙写真説明：蠟梅の里

坂井地区 西野 慎吾

信越線・西松井田駅から車で10分、上細野原高原の有休農地に蠟梅の林があります。中国では蠟梅を唐梅と言ひ、透明感のある黄色の花で花の少ない季節を彩ります。ほのかな甘い香りを漂わせ早春の訪れを告げます。

〔雪中四友〕と称する花は玉梅、蠟梅、茶梅(さざんか)、水仙を指します。

因みにこの写真の撮影日は平成17年1月26日です。

醫 縫 録

女性医師を支えるということ

女性医師対策担当理事 月 岡 幹 雄



昨年4月より県医師会の女性医師対策担当理事を拝命いたしました。開業医生活10年、年齢43歳、妻(ケアマネージャー)と11歳から0歳までの4人の子供というのが私のプロフィールです。「子供が多いのだから、若いのだから、女性のことも分かるだろう」という理由かどうかは知りませんが、なぜか私が女性医師対策担当ということになりました。

女性医師対策とは、医師不足に対してもっと女性医師の皆さんに活躍していただきましょうという事業です。現在、医師国家試験合格者は3分の1を女性が占める時代になりました。今後は女性医師の割合が増加していきます。つまりは、女性医師の協力なしには日本の医療が成り立たなくなるということなのです。そのため、厚生労働省と協力して日本医師会が女性医師支援事業に取り組むことになりました。

女性医師支援事業の活動は、日本医師会女性医師支援センターを中心に、各県毎に事業を行っています。福井県医師会ではふくい女性医師支援センターを平成20年5月に設立して、女性医師の就業継続、復帰支援サポートをはじめとして、医学生及び研修医との会や女性医師を囲む会などの活動を行ってきました。

現在、福井県の女性医師は勤務医約200名、開業医約50名です。福井県医師数の約14%とほぼ全国平均という状態です。30代までは勤務医をしている方が大多数ですが、30代後半より開業医として働くという人が増えてくるのは男性医師と同じです。福井県は、共稼ぎが多い地域であり、女性が働くということに対する社会的理解はあると思われませんが、それでもやはり色々な問題があります。

日本では女性の就業人口割合が、30歳代を中心に落ち込むM字カーブとなっています。女性は出産すると仕事を中断せざるをえない状況にあるのです。日本や韓国など儒教的価値観の国では、家事・育児は女性の仕事であるという認識が強いようです。最近では日本でもこのM字カーブが浅くなってき

ております。しかし、その理由は、結婚して子供を産む女性が少なくなったからであり、産んだ人の状況は変わらないのです。それでは、男性のサポートが得られるかということ、30歳代男性の1週間の労働時間は、60時間以上という人も多く、とても家庭のことまで手が回りませんし、女性も男性並みに働こうとするとそのような働き方を強いられるということになります。

一方、国の家庭へのサポートはどのようになっているかということ、家庭関係社会支出の対GDP比で日本は1.13%となっています。先進国において少子化対策が成功したフランスは3%となっています。少子化を含めた家族のあり方にも、やはり国の家庭支援関連予算の充実が必要であるということだと思われます。今後、育児についての社会扶助がさらに充実することが望まれます。

福井県女性医師対策委員会では、平成24年2月7日福井大学医学部臨床教育研修センターにて「福井でこそ、良医になれる、後輩(子育ては育自に役立つ)」という講演会を予定しています。これから医師になる若者(男も女も)を対象に、4人の講演者より色々な立場からアドバイスをさせていただく予定です。この会は、医学生にワークライフバランスについて考える機会提供の場と考えています。いわゆるボトムアップ型活動です。このような活動を通じて、福井県の医療がこれからうまく機能していくように、すこしでもお役に立てれば幸いです。

最後に「女性医師を支える」のは、85%の男性医師です。圧倒的多数を占める男性医師の協力なしには、うまくいく道理がありません。性別、世代別に様々なご意見があるとは思いますが、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。